

腹膜偽粘液腫ってどんな病気？

虫垂や卵巣などにできた腫瘍細胞から粘液がどんどん発生することで、原発巣が破れてしまい、腹腔内にまき散らされる（**腹膜播種**）の状態になる疾患です。原因は不明です。発症頻度は極めてまれで100万人に1.5人くらいの割合です。

どんな症状？

粘液状の腹水でお腹が膨れていきます。進行具合には個人差がありますが、ゆっくりと進むことが多く、気付かないうちに腹水が充満して、妊婦さんのようにお腹が大きくなったり、腹痛を伴うこともあります。

放置していると、お腹がどんどん膨れるだけでなく、粘液が固形化して大きな塊となり、臓器を圧迫していきます。胃を圧迫されることで食事が摂りにくくなることから栄養失調になったり、腸閉塞が起きたりすることで、生命維持に支障をきたします。



治療法は？

腹膜切除により目に見える転移を完全切除し、残った粘液や目に見えない転移を術中HIPECで治療します。

HIPEC（ハイペック）とは？

腹腔内温熱化学療法のことです。温めた生理食塩水＋抗がん剤をお腹の中に入れて洗浄します。この治療に特化した設備・スキルを持つ医師と医療スタッフが揃う、日本では数少ない専門施設に行かなければなりません。

患者が困っていること・求めていること

希少な病気のため診断が遅れ、適した治療がなかなか受けられない



医師にも一般の方にも、病気について広く知ってほしい

治療できる施設が少なく、遠方での治療になることが多い



全国の主要な病院でこの治療ができるように

専門施設とかかりつけ医の連携が難しい



専門施設への紹介や、手術後の地元病院での受け入れがスムーズになるように

お困りの方は・・・

腹膜偽粘液腫患者支援の会
にご相談ください。

<https://pmp-jp.org/>

PMP 患者支援の会

